

令和 7 年度第 1 回八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館運営協議会

日 時 令和 7 年 6 月 26 日（木）午前 10 時 30 分～11 時 55 分

場 所 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 研修室

出席委員 山下治子会長 北野博司副会長 清水輝大委員 菅原弘樹委員
今井崇雄委員 豊巻裕史委員

事務局 三浦部長 中村館長 間副館長 小久保副参事 杉山副参事
船場主幹

次第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 教育長挨拶
4. 会議

(1)令和 6 年度事業報告について

山下会長	何か質問はございますか。
北野委員	もう出来て 14 年間ということで色々な事業がブラッシュアップされてきて、毎回目を見張るような成果があがっていますが、ひとつお伺いしたいのは、是川縄文館が行う体験学習は専門家がいて発掘もやっていて本物がある。そういう場所で行う体験学習はそれなりに特徴があると思うんですが、今までやってこられて日曜日随時体験できるというメニューとイベントで 5 月 3 日とか 7 月 19 日とか特徴的な体験を集中的にやるというのがあると思うのですが、運営側として体験学習で課題だと思っていることがもしあればお聞きしておきたいです。誰が指導するのかということもあると思いますし、対象が小学生なのか大人なのかでも違うと思うのですが、率直にこういうところがなんとかならないか、ということがあればお聞きしておきたいです。
事務局	さまざまな課題があるのですが、ひとつはこの館だけではなくどこでもできる体験になりがちという部分がございます。そういったことに対応するために是川ならではの体験ということで、臨時にお菓子作りの考古学でしたり、是川の編み組みの技術を再現したワークショップの開催など、メニューの開発に努めております。また縄文

	プラ板ストラップなど、試験的に是川（遺跡をモチーフとした）グッズ作り、縄文のものづくりとは少し離れますけど、もう少し気軽に来てもらえるような体験の開発をここ数年取り組んでいるところです。 もう一つの大きな課題は学芸員が行う行事の他に、日曜日はボランティアガイドさんをお願いしていますので、そのボランティアさんにやってもらえるメニューかどうか、そのすり合わせというのもひとつの課題となっています。なにぶんベテランさんが多いボランティア団体ですので、縄文のものづくりを追及されるプロフェッショナルな方が多く、それは違うんじゃないかとか、焼かない粘土ではなくて焼くまでしっかりやらないとダメだという方が多いというのが、体験されるお客様とボランティアの願いとかみ合わない部分も多少は見られるのかと思います。
北野委員	多様なニーズに応えるという部分で難しい部分があるが、教材研究はやっていかなければいけないし、ここは本物があるところなので、出来る限り本物を見せる。本物の技術、ものづくりをどこかで知っていただいて楽しくなければいけないのでそのあたりで少しカスタマイズするところはあると思うのですが、考古学体験の神髄は、私は技と知、自然知だったり民俗知だったりすると思うのでそこをぶれてしまうと、かなり深く突っ込んだ体験を通して学ぶということも大切だし、子供はそのまま提供しては理解もできないし楽しくもないと思うので、そのために必要なのは私も短い経験の中でやっていたのは学校の指導案を書くんです。導入、展開、まとめみたいな。それをボランティアガイドの人たちにも共有しながら何をここで学んでいただかないといけないのか、どんな楽しみを体験するのかということはある程度スタッフで共有されるといいし、どんどんやっていってブラッシュアップできるかと思いますので、そういうところを一緒にアドバイスできればいいかなと思いました。
山下会長	ありがとうございます。 ボランティアさんの中にはかなり探求心が強くてレベル的にもすごく高い方もいらっしゃると思うんですが、今は何人くらいで年齢はどれくらいの方が多いのでしょうか。 14年経っているわけなので。
事務局	会員数は36名いまして、大学生から80代の方まで。主に60代後

	半から 70 代の方が活躍されている団体になっています。
山下会長	男女比はどうか。
事務局	男女比はほぼ同数、半々です。頻繁に来ていただいている方はほぼ同数の方でやっています。
山下会長	わかりました。ありがとうございます。 これからも色々、今風な感覚もいれながら（進めてください。）このクッキーなどはとても楽しかったと思いましたけど。
菅原委員	いま事務局からお話がありましたけど、うちでもずっとやっているイベントでもリピーターさんと、間口として初めて縄文に触れたいという方はイベントに対する求めるものが違うんですね。今、うちでは「縄文教室」という土器作って野焼きをして縄文鍋を作る体験講座を 3 回コースでやっているんですけど、それを土器づくりのところで二つにわけて、こだわる人とそうじゃない人という形でやるようにしています。リピーターさんだと、うちとしては里浜貝塚にこだわってほしいんですけど、是川から出ている土器の図録を持ってきて、それを目指そうとする人もいます。家族で参加する人はそこまで考えないし、簡単に午前中くらいで終わって帰りたいという方もいますし、こだわる方は二日ばかりじゃないと作れないとか。壺とかになってくると一日では作れないんですね。 こだわる人は教わらなくても自分で取り組むものですから、そういったやり方もあるのかなあと実際やってみて感じています。イベントなんかでもおっしゃったとおりどこでもやっているようなものは我々としても疑問を持ちながらやっている部分もあるんですね。そういった中でこだわる部分と、ニーズとして勾玉を作りたいとか火おこしをしたいというニーズはあるものですから、両方うまく分けてやるようなことを考えたらいいいのかなあと思っています。そういう考え方で進められたらいいんじゃないでしょうか。こだわる部分はこだわる、そうじゃないニーズに対してはある程度ボランティアさんにお手伝いいただきながら進めるというのがいいのかなあと 생각합니다。
山下会長	ありがとうございます。メニューの中に、初級、初心者向けとかファミリー向けとかこだわりの方向けとか、メリハリをつけるということですね。 他はいかがですか。

清水委員	夏の特別展が開館以来第 2 位の入館者数ということですのでいいと思ったんですが、どういう要因でこうなったと評価されているんですか。
事務局	夏の特別展は（縄文時代の）土器ではなく、かごを扱う国内初の展示となりまして、縄文のかご（編組製品）が集まった初めての展示ということで、日本各地から復元かごを集めましたので一堂に見られる機会ということでかなり各地からお越しいただいたのかなと思っています。
清水委員	かごマニアが来たということですか。
事務局	そうですね。その部分も訴求できるように、かご好きの方がかなりいらっしゃるんですね。かごが大好きな方がたくさんいて、民芸の部分もありますので、そういったところにも響いたのかなと思います。マイかご割引とか推しかご投票とかそういったいろんなイベントも会期中に開催しまして、そういった工夫も数に現れたのかもしれませんが。
清水委員	すごい。ありがとうございます。知らない世界がたくさんあって。
北野委員	専門家も相当来ているんです。内訳がわかるといいですね。例の去年のものですよね。全国的に考古学界では評判になったので。こういうことは今までなかったのですごく集まりました。面白かったですよ。勉強になりました。かごマニアだけではないということを感じたかったです。
清水委員	当館でも夏にウニ展を行うのですが、ウニ展をやるとウニの大好きメンバーが全国からまた集まって、それをウニャーというらしいんです。
菅原委員	うちではウニを食べるイベントをやったりしたんです。貝塚からウニが出てくるものですから。縄文の講座を座学だけでやろうとしてもなかなか集まってくれないのですが、縄文風にウニを食べましょうというとなみんな集まってくるんです。石器で割って食べるんですけど、縄文人がそうやっていたのかはわからないのですが、なぜここでウニを食べる体験をやるのか、貝塚から出てくるもので縄文人の食生活のことに入っていくって、食べ物で釣って。こういうイベントだと家族皆で参加するので、そうするとうちでこんなこともやっているということを知って、他のイベントにも参加してくれるようになる。食べ物で釣るということもやっています。

山下会長	ウニャーにはびっくりしましたね。 編み組みの場合は、今でも編んだりするのは続いていますので、多くの人が、興味があったんだなあと思います。 他にご質問等ありますか。では私から、復元編みかごワークショップが3月に行われていますけど、夏の特別展の関連イベントですよ。これはやってほしいという要望があって3月になったんですか。
事務局	当初は会期中にやりたかったのですが、タイミングを見計らって準備をしっかりとからの開催ということで3月の開催とさせていただきました。かごを作っている方も参加いただいたのですが、それでも難しいと。是川の技術は相当なもので、クラフトテープでも難しいと皆さんおっしゃっていました。初級編はぎりぎり時間内に、上級編は皆さん集中して何時間も制作しても、完成した人は何人かしかいなかったくらい難しい技術というのをわかっていただける講座となりました。
山下会長	写真にあるのはクラフトテープなんですか。
事務局	クラフトテープで、竹のような色合いのもので行いました。
菅原委員	モデルは是川遺跡なんですか。
事務局	編み組みの技法のモデルが是川（遺跡）のもので、底を網代で組んで、横は飛びごぎ目にして、青海編みを入れて、上級者は5段階の編み方を再現する。本当は50段編まないといけないのですが、これは十数段というところです。クラフトテープの先生で（縄文かごの）復元にも関係している方をお招きして開催しましたので何とか出来るようになりました。
山下会長	ありがとうございます。難しい技術なんですね。
北野委員	10月25日にクリーンデーということで作業されていますが、これは年1回だけですか。
事務局	年2回程度予定していましたが、8月は雨天のため中止しまして10月だけの開催です。
北野委員	作業時間はどれくらいやられていますか。
事務局	一時間弱程度で終わるようにしてまして、終了後に学芸員の展示案内とセットで行っています。
北野委員	毎回募集されるんですか。それともボランティアスタッフの人たちが中心になっているんですか。

事務局	市の広報で募集をして一般参加も募っています。
北野委員	私も地元で 10 年ほど史跡（羽州街道檐下宿金山越）の保全活動、市民史跡保全活動をしていて、市で募集していて、そこは山間部なので市でマイクロバスを用意して現地まで行くんですけど、必ず作業は 2 時間、夏は暑いので。年 3 回。山形なので冬は倒木があるので春は早めにやるんですが、年 3 回やって 2 時間作業で、現地で学習会があって自然の専門の先生、毎回分野があるのでそうするとボランティアたちが来てくれるし歴史学習、郷土史の人が街道の史跡なのでそういう宿場の話をしてもらったり、お昼は地元におばちゃんズクラブという郷土料理を作る団体があるのでおばちゃんズクラブのお弁当を 1000 円くらいで食べて、市役所に帰ると 3 時くらいという感じでやると続くんですね。爆発的に人が増えるわけではないのですが、新陳代謝もある程度あってだんだんすそ野が広がっていくというのがあるので、こちらでもこの館の展示をしているという話ですが、その食と知的好奇心が組み合うとある程度続くと思っています。その活動の中で、山間部なので枝がたくさん落ちるので地元の造園業者がウッドチップの機械を持ってきてくれるんですね。企業が地元貢献で。そうするとそこで全部処理して現地に敷きならしてある意味、循環的な資源の利用ということでやっていて非常にうまくいっていると思っている例なので、参加者の要望も聞きながら楽しみもうまく入れてやっていくとより効果的になっていく。これから史跡整備もされていくようですから、史跡整備の管理は業者に頼むとお金がかかるので、出来る限りボランティアなりこういった形でやっていくと愛着もよりわいてくるのでいいんじゃないかと思いましたので参考になれば。
菅原委員	ちなみにどこの取り組みなんですか。
北野委員	山形県上山市というところで、茅葺屋根の茅も休耕田を使って茅を育てだして、9 棟あるんですが自分たちで採取した茅場の茅で賄っていて、売れるようになったので、儲かるようになったのでまちづくりの人が集う場所の整備をしたりアスファルト舗装したり炊事場を変えたり、いずれにしても循環的にできる仕組みを作るのが大変かなあとと思います。
菅原委員	東北芸術工科大学の学生さんも入っているんですね。
北野委員	茅刈りは全国から集まってきます。噂を聞いて。

山下会長	茅を刈ることが面白いということなんですか。
北野委員	それだけではなくて、地域の人たちの集まり、集って自分たちの町を良くするためにやっている人を見に来るところもあって、もちろん郷土料理もおいしいし、色々な交流があるので、10 年くらいやっていい雰囲気になってきました。
今井委員	質問でも意見でもなくて、感想めいたことなんですが、先ほどの体験学習のところを聞いていてなるほどなあと思って感心して聞いていたんですが、ユーザーの目線で言いますが、私の子どもが小学校低学年なので博物館など大好きで 3 月頃に東京の科学博物館に行ったり福井の恐竜博物館に行ったりして、体験が大好きなんです。先ほどのお話でいうとライト派、化石の発掘は石を割るのが面白がってやって、青森に帰ってきててもまたやりたいから久慈に連れて行ってくれというし、ペンダント作りも大好きで先週もチラシが入ってきて三沢航空科学館でペンダントを作りますということで 9 時からということでしたら、9 時過ぎについたらもう満員でペンダント作りに入れなくて、聞いたら 8 時過ぎたらみんな並んで開館と同時に定員に達しましたということと言われて、それでも半日以上、昼過ぎまで航空科学館で遊んできたので、ライトはライトでニーズがあるということで、ライトも効果がありますので続けて頂ければ子どもたちがまた行きたいとなりますので続けていただければという思いで聞いていました。
山下会長	そうですね。ライトの部分も大事だと思います。
豊巻委員	今日は準備をありがとうございます。小学校の方は六年生が政治の勉強が終わって歴史の学習に入っているところで、教科書では縄文から米作りが始まって弥生になって争いが起きてというところを勉強しているところでした。副読本も作っていただいて教科書、ノート、資料集も一緒に準備して使わせていただいているところでした。ありがとうございます。 子どもたちの姿が写真の中に見えているんですけど、子どもたちの参加、以前はここに来て土器を作らせたこともあるんですけど、子どもたちのそういった講座や体験活動への人数はどうなのかなあと興味のあるところでした。増えているのか、減っているのか。感触で見て。
事務局	年報の 47 ページをご覧くださいますと、小中学校の利用状況をま

	とめたものがございます。特に大きく増えてはいないのですが、毎年同様の推移で小中学生に利用いただいているような状況となっています。 令和5年度で1806人、少し令和6年度は減っていますが、学校によってはなかなか是川まで学校で来るのは難しいというところもあってまだ利用いただいていない学校も何校かあるんですが、毎年来ていただける学校とか、新しく来ていただいている学校がありますので、我々も働きかけをし、出前も出来ますのでお伝えしながらご利用いただくように努めたいと思っています。
--	---

(2)その他

山下会長	今のご説明について何かご質問などございますか。
北野委員	合掌土偶は何体あるのかというか、レプリカはどれくらいあるんですか。
事務局	是川縄文館にはレプリカは3体ございます。
北野委員	それは外に持ち出すときに利用するということですか。
事務局	レプリカ自体の借用希望もありますし、当館で貸出期間中の展示にも使いますので3体ございます。
北野委員	また来てね券というのはいいアイデアですけど、これは自分のところでこのアイデアを出されたんですか。
事務局	是川郷土館開館以来、数度貸出がございまして運営協議会の中で、確か以前山下会長からご提案いただいたような記憶がありまして、こういった名前でやっております。
北野委員	知らなかったのですごくいいアイデアだなと思って。ネーミングもそうですけど。
山下会長	以前、金沢の21世紀美術館でこどもたちを招待したんですね。そのときに親御さんとまた来てほしいということで、子どもたちから親に対してこれを渡すということと、子どもたちが主体的に美術館に行ったら面白いんだよということを伝えたいということもあって、こちらのとは少し違うんですけどもう一回リピーターとしてきていただくというような狙いですね。
北野委員	今日お配りいただいたアンケートの集計を見て満足度が高いというのはこちらの努力だと思うのですが、特に印象に残った部分を見るとこの合掌土偶がトップなんですけど、ここの展示の美

	というか、展示もそこを意識されていると思うのですが非常に美的なものを縄文のデザインであったり、それをいかに見せるかというところに大変苦勞されているところがうまく伝わっている成果かなと思うんですね。それがうまくいきすぎているから、私なんかは逆に技と知のところがもっと伝えられないかと思うんですね。体験もやったり本物もたくさん持っていて、今やっている体験はこうなんだけど実際いろいろと研究していくと材料はこういう素材を使っていて、身体動作というか、昔の人の身体の技というのが今の人は完全に断絶しているのでその部分をうまく伝えられないんですね。火おこしなんかでも私たちがやっていたときは絶対にもみぎりしか使わなかったです。材料とちょっとした小技、ノウハウがあれば小学生でももみぎりで火が起こせるんですね。そういう部分の知恵とか身体技術みたいなものも伝えたいという変なこだわりがあって、満足してもらっているからこそ余計もう少しそういうところに手を差し入れられないかと思ったので。余計なことですけど。
事務局	展示のコンセプトが当館では設計段階から「縄文の美と謎を探る」で、おっしゃるとおり謎の部分が少し弱いのではないかとご意見もいただいているのですが、企画展示ですとか体験学習の部分で補いながら、来るべき展示のリニューアルの際にはそういったところも展示の中に入れ込めるように準備を進めていければいいのかなと思っています。
山下会長	謎という部分では福島の宮畑遺跡で小さな子ども用の甕（棺）がたくさん出てきて謎が多いので、縄文の謎、ミステリーといって小説を募集したりしていましたがね。そういうものもあります。あの時は結構応募があってそういうものが出来たらしいのですが。 宮畑遺跡でいうと、縄文の運動会、縄文の技と使って運動会をするという。でも疑問があってやめてしまったそうですが、これでいいのだろうか、試行錯誤して面白い発想で遺跡に来てもらうというのがそのやり方ようです。
菅原委員	西沼田遺跡でもそういうこともやっていますよね。あそこが最初ですよ。
北野委員	稲を干す、はさぐいを投げる、さくらんぼの種を飛ばすとか、浜

	松市博物館の鈴木さんがいつも言っていますが、いろいろな試みの死屍累々の上にしかいいものは生まれてこないなので、果敢に挑戦していく、それを常に評価していくとだんだん洗練されていくんだろうと思うのでチャレンジすることも必要だと思います。
菅原委員	うちでよく貝塚に行って貝塚見学をして、土器とかを拾ってきて、拓本を取って持ち帰るということを企画するんですが何回やってもだめですね。人気がないです。拓本を貼る台紙を工夫して作って時代はいつのものかとか、ヒントになる土器を並べたりして、興味を持ってもらえたらと思うんですが、それは学芸員だけの思いで一般の人にはなかなか伝わらないようです。趣向を変えて何回も拓本に挑戦しているんですが。
山下会長	拓本というものに、以前よりも興味が失われているんじゃないですかね。
菅原委員	鉛筆でこすって模様を出すとか、そういったこともやったりしたんですが。
北野委員	我々の頭は凝り固まっているので、拓本って今の子どもたちはどう感じるんでしょう。
清水委員	単純に子どもたちが机の上で没頭するみたいな感じでは、楽しいと思うんですね。今世の中、子どもたちを取り巻く環境が外的な要因でエンターテインメント化されたサービスの中で育っている中で、黙々と手の中でやるというのが新しい学びとしてとらえられていると私たちのミュージアムではあります。一方でマーケティング的な目線になったときに、任天堂 Switch に慣れている子どもたちに対して拓本に行きたいとどう思わせるか、そのメッセージング、内容としては圧倒的に興味があってプリミティブな体験になるので重要な体験だと思うので、それをどう今の子どもたちに響くようなワーディングにするのか。前回もこの会でこういう議論になったと思うのですが、まさにそういう気がします。拓本というなら、拓本と習字のフォントでやったら来るかもしれないですし。先生方にお伺いしたほうがいいですかね。
豊巻委員	六年生で歴史を勉強する子どもたちの興味はハイキューのアニメで、なかなかそういう女の子たちを引き込むのは難しいところ

	ろは感じますが、子どもたちはこれから修学旅行に行くんですが、スタンプとかがあると大人の世界でいうと御朱印帳とか神社に来ましたとか、子どもたちはスタンプですのでスタンプと拓本を組み合わせるとか、拓本のスペースを小さくやってスタンプもあるとかというのは、素人ですけど集められたりすると面白いのかなあとと思います。
山下会長	拓本って私も実習のときにやりましたが、こういうやり方があるんだと。和紙に水分を含ませて、その上から墨というかタンポで押していくと模様が浮き出てくる。あとは石碑とか拓本で取られたとかいうことはありますが、今あまり現場で見る事が少ないので、すごく大きいものを作って見せるというパフォーマンス的なもの、墨じゃなくて色がついたもので。
菅原委員	ラメ入りのものもやったりしたんです。
山下会長	この小さな空間ではなくて、手仕事はそこで面白いと思うのですが、逆にこういうものがあるというのはもっと大きいもの。マンホールのフロタージュとかもありますけど、そういう方法もあるという発見を示してあげるのも楽しいのではないかと思います。
北野委員	実は考古学の現場で学生たちも「ひかり拓本」とか、画像を処理してそういう拓本のようなものができるんです。ライティングしたりして。縄文土器の拓本もあまりやっていないので、デジタルデータの処理で拓本と同じような効果を出している。それはある意味新しい技術なので、どんどん現場に広がっています。考古学者自身が、拓本が手の中で何か浮かび上がっている体験の驚きを発見するということになっているので。おっしゃったように、プリミティブな体験が本当は根底になければいけないので、それをどう導くのかという工夫、アイデアはこれから考えなければいけないと思いました。
清水委員	先日、別件で不登校の協議会で一緒に議論をしてきたんですが、そこでも似たような議論がありまして、どうして子どもたちが不登校になるかというひとつの新しい要因として、デジタルドリブンで、テクノロジーに囲まれた世界で生きている子供たちにとっては自分が本当にやりたいと思うことは生活で満たされているような状態がデフォルトになっている。学校ではやらせ

	になっていると感じる部分が多くて、そこに行く意味を感じるというのが、子どもたちが失っているという議論をしました。 拓本がいい例で、模様に着目するという学びの本質が伝われば絶対に面白いはずなんです、前段階で子どもたちがやろうと思わないとなったときに、やらせではなくて子どもたちの価値観で子どもたちに本気でやりたいと思わせないといけないので、企画の外側に子どもたちに寄ったデザインが必要というか、やる内容で工夫するのもそうですし、それはすごくおしゃれな T シャツになるとか、あるいはマイクラのキュービクの表面的な模様が縄文の模様に近かったりとか、そういうフックをちりばめながら、気が付いたら学びの本質に到達している。知らなかったけど到達しちゃったという状態が必要になっていると文科省の協議会の中では議論していました。それに近い話かと思ひまして、参考までに。
今井委員	私もいいですか。関連するかどうかかわからないのですが、拓本も興味があればやと思うのですが。私の身の回りのことでお話するので、不正確でしたら話してほしいのですが、知事が変わって学校の働き方改革でだいぶ変わって部活というものに入っている子がいない。学校から部活が切り離されてしまったので、親が子を見守りをしないといけない。親の負担が多くなる、3時に体育館にいった見守りをしないといけないという、親が見守りに参加できない子はやらない。お金もかかる。こんなにかかっていたのかなあと思って、私の子どもの周りの友だちもみんな部活はやっていない。うちはやっているんですが。じゃあ学校から帰ってきて何やっているのかと思うんですが。私の子どもはたまたま部活をやっているんですが、帰ってきたら Switch もたまたまやっているんですが手で何かやっている、その中で拓本も興味があればやるんだろうし、部活の時間、子どもたちにとっては時間が出来ているのかなあと思うので、その時間をそちらにもっていくということもあるのかなあと思いました。
山下会長	子どもたちの生活スタイルも変わってきているということですよ。他には。
今井委員	国宝の貸し出しなんです、昔から八戸に国宝が 3 つあると言われていて、青森にある国宝はすべて八戸だと言われてきて、鎧

	も今年は確かいないですよ。重なるんでしょうね。 私も東京からお客さんが来たりすると国宝を三つ見せるんだと思っていて、一つあればいいけど来てないとがっかりする。こっちになかったら鑑見に連れて行けばリカバリーできますが、向こうに何もなかったりしたら残念だなあと思いました。また来てね券すごくいいなと思いました。ただ一期一会の方もいると思うので、一年以内に来れるかなあとと思うと、せっかく遠くからきて、と思うと出来ないのかもしれないですがもう少し長くとか永久とか。一生のうちにもう一回くらい来てくれたらいいかなあと。市内、県内の人でしたら一年以内に来れるんでしょうが。 私もこの前同僚が山形に出張に行くという事で米沢の博物館にこういうのがあってすごくいいよと言っていたら、貸し出し中で何もありませんでしたと言われて。広報、周知ですよ。貸し出し中かどうかということを一いち調べてこないでしょうから。
清水委員	全体を通してでもいいですか。 今回も資料を拝見させていただいて、毎回ですがとても素晴らしい活動をされているなあと考えていて、それだけを言うだけだとわざわざ東京から伺っているのに怒られちゃいそうだなあと考えて私なりに考えてきたことがございます。 教育普及の視点から、この資料をなぞるというよりはここに書かれていないことは何だろうという視点で考えてきて、主に2つご参考までにお伝えできればと思います。 一つ目ですが、異分野との連携の部分です。例えばこの中に書いてあるもので考古学の研究家、研究員の方や縄文が好きな方との交流企画は精力的にされているなあとというところで、そこにさらに加えてここのミュージアムの価値を高めるという意味では例えば全然別分野の現代学とのコラボレーションとかアートとのコラボレーションは以前 YORIKO さんとかされていたと思うのですが、例えば私は今科学館にいますので、科学と縄文ですとか、外から縄文を見てみるという視点が教育普及の中にあっただらいいなあと感じました。私の専門である科学教育、サイエンスコミュニケーションの分野では、今不確実な時代と言われて

いて、何を教育として不変の価値として提供していけばいいのかわからなくなっているという実情がございます。たとえばプログラミング教育は数年間学校教育の方で必修化されたりしたんですけど、だんだん誰もプログラミング教育は言わなくなっている状況で、3年くらいで下火になってきている状況がございます。世の中の情勢が変わっていることによってどういう教育体験を提供すればいいか、それに追いついてというのが厳しい時代になってきたときに、それも博物館協議会で話していた時に、縄文であるとかそこから今まで変わらなかった不変の価値が当然研究の中にたくさんあると思うのですが、そこに端を発して人間の価値はそこが不変なんだと考えて教育普及活動を作っていく、そういうことを教育普及の分科会では話していたんですね。縄文の中で何かミュージアムをとすることはたくさんやられていて素晴らしいと思うのですが、さらに付帯するとしたら外側の視点を加えるとその研究されている領域が周りの視点から必要なニーズによって新しい価値を生み出していくということが出来そうだったのがご提案をさせていただきました。

先ほど冒頭でどこでもやっているワークショップになってしまうとあったんですが、実は異分野とのコミュニケーションとか外からの視点で企画を作るとするのは、どこのミュージアムでも国内ではやりたいと言っているけれども実際には実現できていない分野だったりするので、ブルーオーシャンでいいかなあと思ったりしました。

二つ目は、自分というものと縄文を比較するというのがポイントかなと思いました。縄文発信の企画ですと、それに興味を持つ子どもたちや学習者はたくさんいると思うんですが、これも文科省のほうで話していたことですが、ミュージアムがその領域を好きな人だけでは立ち行かなくなるという課題感がある中で、余暇の学びだけではなく、縄文を縄文の中だけの学びだけではなく、自分と連携させた学びにするかというのがテーマになっていました。先ほど任天堂 Switch の話が出ていましたが、今は任天堂 Switch2 が全然買えなくて転売ヤーが頑張っているような状況ですが、そこまでして欲しい任天堂 Switch2 という

	流行は、縄文時代は何だったのかとか。縄文時代でいうところの任天堂 Switch2 はこれなんだという話が出来たらもしかしたら食いつき方が違うかもしれませんし、自分の生活が体験としてあればそこと有機的にリンクする知識だと、よりのめりこみ方が違うと感じていて、そのあたりは我々の科学館でも気を付けて作っているところなのですが、そういう視点があるといいなあと思っていました。 二点とも、縄文のことをさらに一般化された学びに昇華していくために外側からの視点をどう作っていくのかが、より縄文館さん側の学びを端的にしていくのかなと思いました。長くなりましたが以上です。
山下会長	異分野との連携した何か、プログラムということですね。
清水委員	なぜ縄文をやらなければいけないのか、そういうところがあぶりだされてくるような気がしていて、そういう視点がおもしろそうだなと個人的に思いました。
山下会長	色々なヒントが出されて、ありがとうございます。
北野委員	一点だけいいですか。こちら側が企画して開発していくという労力もありますし、たくさんの失敗のプロセスもあると思うのですが、私の大学でやっていることでいえば、探究学習に中高のレベルのメニューが少ないように思えて、中学校高校では探究学習は普通になってきていて、そういう場としてここを利用してもらおう。我々の研究所にもそういう探究学習の取材で高校生から電話がかかってきます。そういったポスターコンクールをやっているんです。パレオ・ラボさんがお金を出してきて、企業に声をかければそういう賞金も出してくれるんですよ。ここへきてもらって学習してポスターにして、ポスターコンクールをやって毎回表彰式をするくらいの労力だからそんなに労力はいらないんですね。新潟県が佐渡金山の探究ポスターコンクールを来年から始めるということで、参加可能な子どもたちを集めて船で佐渡金山に連れて行って、そこまで企画されているんですが中高生というとそういう今の学習ニーズ、そういうところとリンクすると利用してもらえたり来てもらえるかなと思いましたので検討していただくといいかなと思います。
菅原委員	先ほど清水委員のおっしゃられたはやりとか流行とか、今回の

	展示「貝へのあこがれ」とかいろいろと考えていると思いますが、縄文の流行とかにそって何かやってもらえれば。貝のきれいな装飾品とかそんなものもあるかなあと思ったのですが。 北野委員のおっしゃった動きというのは人類学会とか考古学会でも中高生を対象としたポスター発表とかもありますよね。是川は考古学だけではなくて植物のお話であったり色々な切り口はあると思うので、そういうのでやってもらえたらいいなあと思いました。 今日はイベントとか活用とかそういったお話を中心にさせていただいて、今後に向けて色々な意見が出てきたかと思います。あまりおっしゃらなかったのですが、埋蔵文化財保存活用事業で収蔵出土品目録を今回作られましたよね。是川の古い泉山兄弟がおさめたコレクションを、一点一点写真を撮って目録を作られたんですね。それをホームページにアップされていて、それを見てすごく感心したんですね。博物館はそういうことを本来やらないといけないということを、こちらではきちんとやっている。そのうえでの活用。両輪で動かないと、マニアックな世界ではあるんですが、そういったものを博物館としてきちんと資料化するという重要なことをここではやられているということを最後にお話しさせていただきたいと思いました。利用する側、館外の人間にとって大変ありがたく、すばらしい事業だと思います。こういったことをやられるには、予算や体制もありますし、こういうことを形にするのは我々博物館に勤めている人間からすると思ってもなかなかできない取組みで難しいことです。こうした取組みを今後も続けていただければと思いました。
山下会長	ありがとうございます。力強いエールをいただきました。